

児童虐待最多21万9170件

32年連続増「心理的」6割

22年度

全国の児童相談所が2022年度に児童虐待の相談を受けて対応した件数が最多の21万9170件(速報値)に上ったことが7日、

こども家庭庁のまとめで分かった。前年度比で1万1510件(5.5%)増え、1990年度の統計開始から32年連続で増加。暴言や態度などで心を傷つける心理的虐待が全体の6割近くを占めた。

こども庁によると、心理的虐待の中では、子どもの前で家族に暴力を振るう「面前DV」が目立つ。担当者は「夫婦げんかなどで出動した警察からの通告増

が要因として大きい」と分析し、対応する見相や自治体への支援を強化する考えを示した。

虐待相談対応件数は90年度以降、千件台が続いていたが、99年度に1万件を超え、増加幅を大きくしながら2015年度に10万件を、20年度に20万件を上回

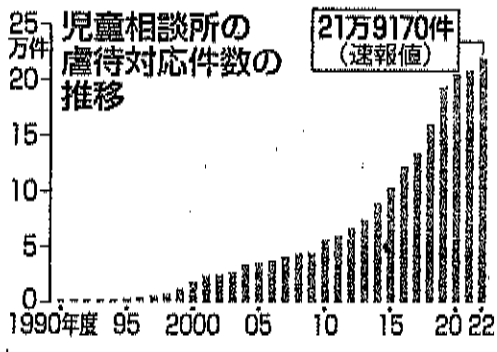
った。

22年度の件数の内容別は、心理的虐待が12万9484件(59.1%)で最も多く、次いで身体的虐待5万1679件(23.6%)、ネグレクト(育児放棄)3万5556件(16.2%)、性的虐待2万4511件(11.1%)の順だった。いずれ

も前年度から増えており、心理的(4760件増)、ネグレクト(4108件増)の増加幅が大きかった。

虐待相談経路は、警察が11万2965件(51.5%)と半数超を占め、近隣・知人が2万4174件(11.0%)、家族・親戚が1万8436件(8.4%)と続いた。

都道府県別(政令市・児童設置自治体を含まない)では、最多が東京の2万705件で、最少は鳥取の148件。福井は922件で前年度比96件(9%)減った。



児童相談所の虐待対応件数の推移